

補助事業成果報告書

法人番号	231001	法人名	愛知学院	学校名	愛知学院大学
内定番号	—	補助項目名	在外研究		
教育研究課題名	欺瞞的コミュニケーションに関する包括的検討				

1、補助事業の取組状況（500字以内）

受入研究者である、ポーツマス大学のAldert Vrij教授の下で、欺瞞時の行動、欺瞞検知に関する最新の研究知見について学んだ。また、Vrij教授との共同研究として、嘘をつく際に用いられる言語的方略に文化差がみられるか否かを検証するため、日本人とイギリス人の大学生を対象とする調査を実施した。調査は、オンライン上でのアンケート作成ツール（Qualtrics）で作成された調査サイト上で実施し、調査依頼に応じた者にアンケートに回答してもらった。先行研究において嘘をつく際に用いられるとされている言語的方略について、日常生活で嘘をつく際と真実を話す際に、それぞれの方略をどの程度用いているかに回答するように求めた。日本人149名、イギリス人101名からデータを得た。

2、補助事業の成果（500字以内）

補助事業において実施した研究の目的は、嘘をつく際に用いられる言語的方略に文化差がみられるか否かを検証することであった。コミュニケーションにおける文脈依存性の異なる文化を母国とする者、すなわち、日本人（文脈依存性高）とイギリス人（文脈依存性低）の大学生を対象とし、先行研究において嘘をつく際に用いられるとされている言語的方略について、日常生活で嘘をつく際と真実を話す際に、それぞれの方略をどの程度用いているかに回答するように求めた。調査は、オンライン上でのアンケート作成ツール（Qualtrics）で作成された調査サイト上で実施した。

分析の結果、いくつかの言語的方略について、日本人とイギリス人で違いがみられた。具体的には、日本人はイギリス人に比べ、嘘をつく際の特徴として、「多くの情報を話すことを避けようとしやすい」一方、「論理的で、情報を十分に提供しようとしにくい」という結果が得られた。これらの結果は、嘘をつく際に用いられる言語的方略に文化差がみられることを示している。

以上の研究成果については、国内外の学会での発表、国際学術誌への論文の投稿を予定している。

所属	職名	氏名
総合政策学部	准教授	太幡 直也